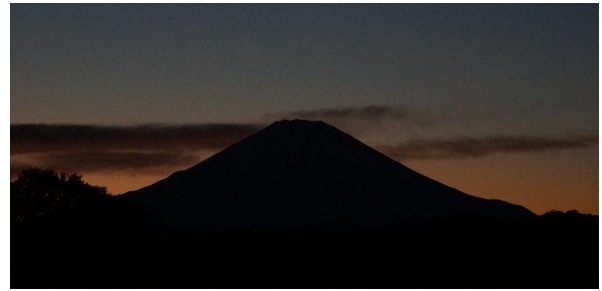


＜茜（あかね）色＞を残す薄雲と空を背景にした富士のシルエットは快晴の夕暮れのものとはまた違った趣があります。ところで夕焼けの色は茜色、朝焼けの色は東雲（しのめ）色とか曙（あけぼの）色と言うのですね。どちらも赤ですが、赤には色調により茜、東雲のほか緋、朱、丹、紅など合わせて 35 種類もの名前が昔からあります。昔の人の自然に対する感性の鋭さにまた驚かされます。



＜秋の名残＞もう 2 日ばかりで冬至になりますがビオトープもまさに“冬に至る”ひっそりとした佇まいです。そんな中でよくよく探すと秋の名残がまだ生きづいています。北の斜面に一株の花を見つけました。花卉の色は白に近いのですが背丈からするとノギクではなくシオンのように思われます。秋の花には遅すぎますが、気温が低いためかえって長持ちしているようです。もうひとつの驚きはイトトンボを見かけたことです。日の当たるガマの枯れ葉に留まっていた。



＜名残のシオン＞

前号でトンボの寿命についてざっと調べましたが幾つかのイトトンボは越冬するようです。写真は鮮明さに欠けますがオオアオイトトンボ(♀)でしょうか。変温動物とはいえこの細身の体でよく寒さに耐えられますね。



＜オオアオイトトンボ(♀)＞

＜輝く網＞暖かい時期というより夏からずっと活動している生き物の一つがジョロウグモです。大きくてやや黄色みを帯びた立派な網が日の光に輝いています。

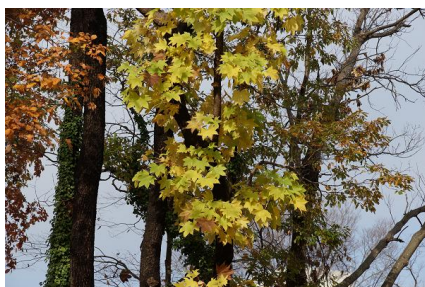


姿を好む人は少なからうと思いますが、名付けた人は赤、黄、黒の模様を持つ姿を愛でて“上臈(じょうろう)”を思い浮かべたのでしょうか。

＜上臈＞江戸時代の大奥での地位の高い女中。

＜ジョロウグモ＞→

＜天狗の団扇＞ビオトープのまわりの雑木林に植わって



いる落葉樹は風が通り抜ける度に一斉に葉を降らせませす。とりわけハリギリの黄色く色づいた大きな葉が舞い散るのは見事です。池に舞い落ちた葉は天狗の団扇のよう



＜ハリギリ (別名：テングノウチワ) ＞

すね。(文と写真：松本正勝)